令和４年度 小松島高等学校 第３回学校運営協議会 議事録

１ 日 時　　令和５年２月１４日（火）午後３時から

２ 場 所　　小松島高等学校大会議室

３ 会次第
(1) 開会 資料の確認
(2) 学校長挨拶
(元山校長)
　本日はご参加いただきありがとうございます。現在３年生は卒業を控えて次の進路先への準備をしており，また，先日共通テストを受験した生徒は，出願を終えたところです。１・２年生は昨年度実施できなかった修学旅行に２学年とも出発することができました。1年生が北海道に出発する時には大寒波で心配することもありましたが，無事行事を終えることができました。生徒たちは，本当に楽しみにしていたので実施することができ安堵しています。コロナの状況も落ち着いてはきていますが，油断せず３月１日卒業式を迎えたいと思っています。
本日は，本年度の教育活動を振り返り，ご意見をいただきながら，来年度に活かしていきたいと思います。

(3) 協議
(中川会長)
　極寒の北海道ではありますが，修学旅行で元気で楽しそうにスキーをしている様子をホームページで拝見しました。学校全体がコロナリスクを乗り越えて，生徒の体験活動を精一杯応援している姿勢に強い共感を覚えました。コロナ対策は大変だったと思います。リスクを考えると近くの場所に修学旅行に行った方がいいと考えるのではないかと思うところですが，そうなると生徒の体験活動が縮小してしまい，大切な生きる力も育たないというお考えから，十分な手立てを講じて実施されたに違いありません。生徒のことをよく考えた学校行事がなされたと思います。
　本日は会次第に沿って，学校からの説明を聞いた後に委員の皆様からのご提言をいただきたいと考えています。この会の役割は，地域住民等が学校の運営に参加して充実させることです。これを踏まえ，より良い学校経営に資するよう，活発な意見交換を行いましょう。
　会次第の(3)協議の④に「地域・教育機関と連携した取り組みの報告」とあります。本日は，生徒さんからの報告があるということですが，授業が終わってから参加することになっているようですので，協議の順番を入れ替えたいと思います。①の令和４年度教育課程の説明の後に，④の報告を入れます。よろしくお願いします。

① 令和4年度教育課程について
(太田企画推進課課長)
　資料は令和４年度，現在の１，２，３年生の教育課程となっている。2023学校案内には，来年度入学生の令和５年度入学生の教育課程を掲載している。令和４年度入学生から教育課程が変わっており，それに応じて本校でも新しいカリキュラムを組んでいる。簡単にその特徴を説明させていただく。
　現在の１年生から年次進行で新しい課程となる。社会では，地理総合・歴史総合という科目ができた。従来本校では，２年生から地理歴史を学習してきたが，１年次から学習するようにした。地理・歴史科目は２年次では「～探究」という科目になる。また，従来では１年次で現代社会を履修していたが，公民の科目では公共という新設科目を２年次で履修する。国語は，１年次に現代の国語と言語文化を，２年次には文

系で文学国語と古典探究を，理系では論理国語と古典探究を履修することになっている。英語は英語コミュニケーションと論理表現という新設科目を履修する。更に１年次で行っていた情報という科目は，現課程では情報Ｉとなり２年生で履修する。

（中川会長）
何か質問はありませんか。

（廣瀬教頭）
補足をさせていただく。２年次から情報Ｉという科目があり，これが共通テストに使われると話題になっている。プログラミングなども学ぶ科目である。３年次は情報の科目がないので，共通テストにどのように対応していくのかが本校の課題となっている。本校には３名の情報の免許を持つ教員がいるが，他の学校は対応できる教員がいない場合もあり，問題となっている。

（中川会長）
この運営協議会の大事な役割として，教育課程の承認がある。質問したい項目等があればこの機会に質問をしてほしい。今説明していただいた中に，例えば体育は１年次から３年次で３・２・３単位であったり，他の科目も学習指導要領に沿ってカリキュラムを組んでいることと思うが，松高として，今回の改訂をどう考えるかをお聞かせいただきたい。

（太田委員）
地理総合・歴史総合を１年次で履修し，地理歴史の探究科目を２年次で履修するということにしているので，従来では１年次に実施していた情報科目や公民科目が２年次での実施となり，２年次での実施科目が増えたために体育を２年次で減らさざるを得なかった。

（廣瀬教頭）
本校は進路希望が多岐にわたる。国公立大学を希望する生徒や４年制大学を希望する生徒が半数程度，専門学校が４割，就職が１割程度と進路希望が多岐に渡っている。すべての生徒の希望に叶うように対応するような形で，教育課程検討委員会において何回も審議を重ねて教育課程を作成した。

（中川会長）
さまざまな進路を松高生は選択する。その希望に対応できるように考えた教育課程ということである。

（西川委員）
生徒たちの進路選択にどのような影響があるのか。変えていいのかという心配もあるのではないか。

（廣瀬教頭）
新課程の教育課程は，他校の教育課程も参考にしながら作成した。松高の生徒に最善となるよう慎重に協議を重ねてできたものである。
月曜日から金曜日まで１日７時間の校時を組んでいる学校もあるが，本校は部活動にも力を入れているため，月曜日から水曜日までは６時間，木曜日・金曜日は，７時間として教育課程を編成している。

（西川委員）
生徒たちの進路希望についても支障はないという認識で構わないか。就職・進学に

ついてもこの形がベターなのではないかという判断でいいか。

（廣瀬教頭）
　そのような認識である。

（太田委員）
　補足をさせていただく。本校の教育課程は２年次，３年次に選択科目がある。共通テストを受験する生徒から芸術・スポーツ系の進路にも対応していることが特徴である。

（中川会長）
　生徒の進路に合わせて，選択科目で対応していることが特徴であるということだと認識した。
　次の議題である「地域・教育機関と連携した取組についての報告」は，生徒からの報告ということである。

④ 地域・教育機関と連携した取組についての報告
［生徒の授業のため，議事を入れ替えて実施］
(1) １年生代表生徒２名が徳島大学と連携した総合的な探究の時間について報告
・ 未来手帳（ポートフォリオ）の活用について
・ 徳島大学畠先生の講演会や大学生・大学院生との交流について
・ 自分の長所を見つける活動について

(2) ２年生代表生徒１名が，地元の中学校で実施した「生徒授業」について報告
・ 分野別探究班について
・ 生徒授業に向けての準備からの学びについて
・ 小松島中学校，小松島南中学校，勝浦中学校での生徒授業について
・ 生徒授業を終えての感想や学びについて

(3) 元山校長が，小松島市ボランティア活動生徒認証について報告
　小松島高校が取り組んでいるボランティア活動について，昨年まではＮＰＯ法人から認定登録を受けていたが，ＮＰＯからの認証がなくなるということで，今年度から小松島市に本校の学生の活動についての認定を依頼してきた。この度，小松島市ボランティア活動貢献学生認定制度として制度化していただけることとなり，令和４年１２月２８日から施行となった。今年度の生徒については，現在申請している段階であり，基準を満たした生徒には２月２８日の賞状授与式で認定を行う予定である。対象となるボランティア活動としては，松原育樹ボランティア活動に加え，本港地区の清掃活動，逆風マラソン，福祉事業の運営補助，ごみゼロ運動学校周辺清掃活動などがある。生徒が自主的に地域に出て活動するボランティア活動も認定を考えており，子ども食堂や海洋環境学習クリーンアップ清掃活動なども対象として考えている。

② 学校評価アンケート・最終評価について

（中川会長）
　学校評価アンケート最終評価について学校から説明がある。

（廣瀬教頭）
　資料については学校評価最終アンケート集計表と学校評価総括評価票を使用します。中間アンケートについては９月に，最終アンケートは１２月に行った。大きな特

徴は保護者のアンケート結果の数値が上昇していることである。特に「一人一台端末の利用が生徒の学力向上に役立っている」や「生徒授業や主体的・対話的・深い学びの実践が学力向上に役立っている」という項目で向上が見られた。また「探究活動が充実している」,「松高セミナー・補習・週末課題は学力向上に役立っている」,「進路講演会などは進路決定に役立っている」が上がっており，ホームページなどによる広報が実を結んで数値が上がったと考えている。コロナ禍で学校に行く機会が減少し，生徒の様子がわからないという保護者の意見があったが，オープンスクールの実施やホームページの充実により，教育活動について理解をしていただけたのではないかと考えている。アンケートの自由記述で，学校の様子についてわからないという意見も頂いたので，より一層広報活動に力を入れていきたい。

（畠委員）
　ホームページの発信については，誰が発信しているのか，教員が発信しているのか，あるいは生徒も発信することができるのか，または文字情報だけなのか，動画などの情報はあるのかなどをお聞きしたい。

（廣瀬教頭）
　ホームページについては，生徒が発信できるとよいのだが，セキュリティ等の問題もあり，現在は教員が発信している。
　ホームページの内容は主に写真８割・文章２割ぐらいのイメージで構成し，ビジュアル面でも見やすい形にしている。

（畠委員）
　インターネットでも，動画が重視される時代になっている。保護者の方も動画へのニーズがあるのではないか。内容のチェックは必要であるが，情報の授業とも絡めて，どのような情報を発信していくべきのか，生徒の力をうまく活用して発信してはどうか。そうするとより保護者に近づけるのではないかと思う。

（廣瀬教頭）
　動画に関しては，生徒が学校紹介のビデオを作成したものをホームページに掲載している。情報の授業については，今後の検討課題としたい。

（中川会長）
　私からは２点質問したい。アンケート集計の最後のページの生徒の意見に，「教員が巻き舌できつくしかる」という意見がある。ハラスメントの関係もあるのでこれに対してどのように対応したのかお聞きしたい。２点目は服装についての校則が厳しすぎるという意見がある。最近は校則について生徒や保護者とともに考えるような取組が見られるようになっているが，小松島高校ではどのように校則について考えているのかお聞きしたい。
　最後は「試験勉強の時間の確保のために，試験前や試験期間中は部活動を中止にしてほしい」という意見に対する感想である。東京の中学校の工藤先生の本には，定期考査を無くしたことが書かれている。学力は単元ごとに小テストを実施して，身につけているかどうか確認していくことが大事で，まとめて中間・期末に勉強することは良くないという意見である。本には，服装や頭髪の乱れを心の乱れを発見するチャンスであるととらえ，その都度カウンセリングをしていくということも書かれてある。

（廣瀬教頭）
　１点目は生徒が特定できず，対応がしきれていない。顧問会議等でも働きかけをしていきたい。校則については担当教頭からお話しする。

（牧野教頭）
　校則については入学するときに最低限のルールを守るように指導している。就職や進学のことも意識して，集会や大きな行事の時には特に身だしなみを整えるという指導を行っている。全国的な流れとして，生徒とともに考える流れがあるが，本校でも今後時間をかけて対応していきたい。本校は校則が厳しすぎるというようには現段階では捉えてないが，このように考える生徒がいるということを念頭に働きかけを行っていきたい。

（廣瀬教頭）
　定期試験については，学力向上の面から無くすのは難しいと思うが，本校における新課程における３観点の評価では，定期考査を偏重しない評価をすることになっているため，このことをもっと生徒対して周知していくべきだと感じた。
　試験前や期間中の部活動の実施については，試験前は試合前という条件を満たしていれば※２時間程度というように時間を決めて行っている。体力維持のための活動ということでルールを決めて行っている。

（元山校長）
　原則は１週間前は禁止。試合前である限り許可制をとって行っている。

（牧野教頭）
　小テストについては，私は地歴公民科だが，単元テストを取り入れている。また，定期考査に過重な負担がかからないように評価を行っているほか，新課程においては主体的な学習の取り組みも評価している。生徒が定期考査に過度に重きを置いているのかもしれないが，今後は機会があるごとに，様々な観点で評価を行っているということもっと生徒に対して周知していいきたい。

（中川会長）
　おっしゃる通りである。子どもたち自身が学ぶことの大切さに気づいて，１日１日の授業を大事にしていってほしい。次に学校評価についてお願いします。

（廣瀬教頭）
　この会においていただいたご意見を，「学校関係者の意見」という形でこの総括評価表に記入させていただく。今年の計画の４０項目のうち，自己評価で評定のＡ（十分達成できた）が１６，Ｂ（概ね達成できた）が２２，Ｃ（達成できなかった）が２となっている。評価としては，概ね達成できたと言える。今年度は，松高のグランドデザインを基調として，校長の重点項目に沿って各担当がそれぞれの目標設定を行って取り組み，自己評価を行なった。
　評価Ｃについては，１・２学年の目標の中の家庭学習時間の確保という項目が達成できなかったこと，そして家庭学習時間が減少していることが成績の下降につながっていると考えたことから，評価をＣとしたものである。家庭での学習時間の確保については，クラウドサービスであるClassiという教育プラットフォームを活用し，「学習マラソン」という取組を行っている。これは，タブレット端末等で学習時間を記入して，みんなで学習時間を増やしていこうという取組である。今後もこういう活動を継続し，学習時間の確保について生徒に働きかけていきたい。家庭学習時間を確保し，自分の力をつけていくことが進路実現に向けて大切なことだということを粘り強く指導していきたい。
　働き方改革が言われているが，管理職の目標設定において，超過勤務改善に向けて面談等をしていくという項目を設定した。超過勤務が多かったのは，９月・１０月・１１月であった。新人戦や高校文化祭など部活動指導が立て込んでいる時期であるのと同時に，就職や進学の推薦入試の進路指導にも放課後に時間がかかる月である。部

活動の指導については複数顧問制度をとり，改善をしていきたい。

（中川会長）
総括評価表についてご意見をいただきたい。

（畠委員）
Ｃ評価の家庭学習時間の確保について提案をしたい。小松島高校はいろんなところで長所を発揮することができ，多様性が魅力の学校であると認識している。その魅力を引き出していくためには，学習を教科における学習だけではなく，「自分を伸ばす学習」と広くとらえ直すことで，この家庭学習時間の設定も評価は現時点でもＢやＡなのではないか。学校の中で学習という言葉のとらえ方に沿わなければならないとは思うが，考え方を変えてみるというのもいいのではないか。

（廣瀬教頭）
松高の教育活動に対する貴重なご意見だと思う。学年やキャリア支援課，教務などとも話し合いながら，目標を立てるときにそういった視点を検討していきたい。

③ 小松島高校の更なる魅力化推進について

（中川会長）
ここからは小松島高校のさらなる魅力化について一人一人の委員の方からご意見を伺いたい。

（内山委員）
公的な機関でも魅力を公開し，情報を発信することが課題となっている。学校においても，民間のアイデアを取り入れていてはどうか。
先ほど発表した生徒さんは聡明でそして親しみやすい雰囲気であった。そのような魅力ある生徒を育成していることを，どんどん発信してほしい。

（谷本委員）
中央会館は高校生も月水金は９時までサークル活動など利用できる。４月から土曜日の午後，日曜日の開館できる。高校生が主催し発表会や展示会が利用できる。無料で利用することができる。不定期でも利用できるので，どんどん利用し，松高の魅力化推進に役立てて欲しい。

（志摩委員）
生徒の挨拶が魅力であると思っており，いつも感動している。本日は生徒たちの発表を聞かせていただいて，嬉しく思っている。先ほどの発表のような探究活動についてホームページに大々的に掲載し，発信していってほしい。松高の挨拶と探究活動は魅力となる。
今日の発表の中で３つ感動したことは，「自分の長所を発見できた」と生徒の言葉で聞くことができたこと。また，「仲間の長所を伝えることができた喜びを感じることができた」ことはすごいことだと思った。また，「自分のやりたいことが明確になったということ」については，私たちが勇気づけられた。こうした素晴らしい生徒の活動をどんどんアピールしていただきたい。
私は前職の銀行で新人社員研修を担当した時に，挨拶は自己アピールになると強く感じた。挨拶はグランドデザインの中にある「人とむきあう力」の育成の基礎になると思う。松高の魅力である挨拶と探究を今後もさらにバージョンアップしていただきたい。

（中川会長）
　素晴らしい生徒を育てていただいているので，いろんな場所で生徒が発表できる機会を設定するといいのではないか。

（藤本委員）
　小松島高校の魅力化について考えた場合，その魅力とは，やはり生徒にとっての魅力であるべきだと思う。では，生徒にとって魅力的な学校とはどのような学校かといいうと，学校に対して自信や誇りが持てることであると思う。
　どんな学校であれば自信や誇りが持てるのかと考えると，挨拶や探究活動など，松高ならではの良さを生徒が自覚していることが大切だと思う。先ほどの発表のようにこのような場で発表することも，生徒の自信や誇りにつながるのではないか。自信や誇りを持つためにはやはり認められる機会が必要である。こどもたちの耳に直接よい評価ががしっかり届くようにすれば生徒たちの自信や誇りにつながる。また，先生方の自信や誇りも間接的に生徒の自信につながると思う。

（畠委員）
　松高は多様性が大きな魅力である。社会ではDiversity and inclusionが叫ばれている。多様性は自分らしさを引き出すからこそ生まれる。同じだとraceの競争となる。学校が，「進学，進学」というとraceとなってしまうが，松高の場合はcocreateの共創がなじみいいのではないか。その方がこどもたちも伸びのびとすることができる。異なるからこそ化学反応が起きるのではないか。松高は，いわゆる進学校よりもいろんな化学反応を起こして相乗効果が生まれる学校なのではないかと考える。生徒の尊厳が育まれるような活動を魅力化の一つにしていただけると，生徒たちがここで生活している意義を感じていけるのではないかと思う。

（中川会長）
　多様性といういことで言えば，立地的にも小松島市内だけではなく，徳島市内や阿南市内からも通う生徒がいる。そのような刺激を受け合う学校である。

（西川委員）
　魅力を引き出すためのシステム化が必要である。学校評価の総括評価表の中の重点課題について担当が書いてある。これだけの仕事を推進していくためには，組織を立て直す必要があるのではないか。組織を立て直してみて，お互いが交流しあって地域コミュニティーにふさわしいような，そして生徒が率先して出ていくような仕組が生まれるのではないか。小松島ならではのアイデアや行動がが出てくるのではないか。松原の育樹活動のような，誰が見てもすごいなというような活動が出てくるのではないか。こういうシステムの改革についても検討していただくと，松高はもっとダイナミックな学校になるのではないか。とにかく主役は生徒。それに先生がきっちり対応する。世の中は変化するので，変化にもしっかり対応できるシステムが必要。

（中川会長）
　縦割りではなく，横のつながりも推進して総合的に活性化する必要があるということですね。

（西川委員）
　そうしていただくとＰＴＡも応援してくれる。同窓会も一生懸命応援する。支援の輪は広がっていく。

（中川会長）

学校評価総括評価票の最後のページの超過勤務について，「できるだけ休みやすい環境づくりを行っていく」ということである。その通りではあるが，教育することが楽しかったり,いい教育をしたいと考えておられる先生も実際には多いのではないか。総括評価表には，負担感を感じている教員はいないと書かれており，先生方から職員室のムードもいいと聞いている。単に休みやすいことが学校の魅力化につながるのではなく，先生方が負担感を感じることなく教育に打ち込めることができる環境づくりや働きやすい環境づくりが重要なのではないか。松高での教育活動が楽しいと感じる教員が増えることが魅力化につながるのではないかなと思う。このように教員の魅力を高めることも松高の魅力になるのではないか。

（西川委員）
防災士の資格を８名の生徒が取ったということを見たことがある。防災教育に力を入れ，防災士の資格を取得させることも魅力化につながるのではないか。

（中川会長）
最後に，委員の皆さんからのご提言に対して，校長先生からお願いします。

（元山校長）
松高の魅力化について貴重なご提言をいただき感謝申し上げる。本年度の重点課題については皆さんからのご提言を活かしながら，来年度改めて取り組んでいきたいと考えている。

（中川会長）
本会の会則において，学校経営方針と教育課程は本会が承認するという形になっている。詳しくは来年度の第１回で承認いただく形となるが，ぜひ改善したことがあれば会長まで連絡いただきたい。
委員の皆様の前向きなご意見がこれからの社会を担う生徒の生きる力を育む教育力の向上に大きく貢献すると認識している。多くのご意見を頂けたことに大変感謝している。

（中川会長）
以上で，予定されていた議事が全て終了した。事務局にお返しする。

(4) 閉会
※ 事務連絡（廣瀬教頭）
教員の誇りが生徒の誇りとなるというお話や教員の働きやすい環境づくりが生徒ののびのびとした教育活動につながるというお話をいただき，明日から頑張ろうと思うことができた。
事務連絡として
① 議事録については，公表する前に事前にご了承をいただくこととする。
② 委員の依頼について校長からご連絡する。任期は１年とするが，再任を妨げないとなっている。
③ 令和５年度の第１回学校運営協議会については，５月中旬頃の開催を予定している。時期が来たら，ご連絡を差し上げる。